

令和元年度 久留米市文化芸術振興審議会 第2回会議 議事録

1 開催日時

令和元年8月23日(金) 10時30～11時45分

2 会場

久留米市役所本庁舎 13階 1303会議室

3 出席委員(順不同) ※9名

木藤委員(会長)、木村委員(副会長)、井原委員、上田委員、大倉委員、中西委員、福田委員、前原委員、矢次委員

4 欠席委員 ※2名

片山委員、古賀委員

5 事務局 ※11名

市民文化部 竹村文化芸術担当部長、西村次長

文化振興課 土居課長、小野課長補佐、新郷主査、中園主任主事

文化財保護課 水島課長

久留米シティプラザ 大宝課長補佐

公益財団法人久留米文化振興会 井上事務局長、隈課長補佐

久留米市美術館 眞子主幹

6 議事次第

1 開会

2 協議事項

(1) 「久留米市文化芸術振興基本計画(平成27年度～平成31年度)の総括」及び「次期久留米市文化芸術振興基本計画策定に当たっての基本方針」について

(2) 次期久留米市文化芸術振興基本計画の骨子について

3 その他

4 閉会

議事録

1 開会

- 事務局より、過半数の委員が出席しており、会議が成立していることを報告。
上田委員を紹介。(前回欠席だったため。)

2 協議事項

- (1) 「久留米市文化芸術振興基本計画（平成 27 年度～平成 31 年度）の総括」及び「次期久留米市文化芸術振興基本計画策定に当たっての基本方針」について

- 事務局より資料 1 及び 2 に基づき、第 1 回審議会の意見の反映状況等について説明。

○ 木藤会長

- ・ できれば、実績というか、シティプラザであれば入館者数とか、美術館であれば展覧会の開催数とか、そういうものを追加していただけないか。子どもたちへのアプローチという点でも、芸術家派遣事業の件数とか、少し具体的な数字を入れられたらどうかと思う。それと、課題という点で、少しネガティブな点も記載すべきであると思う。アーティストデータベースについては、何も進んでいないということがあるので、それは課題としてしっかり記載したほうがよいのではないかと思う。

- (2) 次期久留米市文化芸術振興基本計画の骨子について

- 事務局より資料 3 に基づき、次期基本計画の骨子について説明。

質疑

○ 木村副会長

- ・ 久留米市は、ドイツ俘虜が収容所でベートーヴェン「第九」を演奏し、これが、一般市民が聴いた最初の「第九」と言われている。これは久留米市だけではなく、筑後地域全体においても貴重な資源だと思う。

● 事務局

- ・ 資料 3 の P 5 に「(2) 久留米ならではの文化芸術資源を活かした都市魅力の創造」、「②音楽の力を活かしたまちづくりの推進」というものがあるので、そういったところで触れられたらと思う。

○ 福田委員

- ・ 現基本計画の P 2、文化資産というところで、人間が作ったものは記載があるが、そのベースとなる「自然」の記載がない。自然は文化芸術を育むきっかけになる。文化芸術の基盤なので、写真等を入れると、もう少し有機的なものになると思う。
- ・ また、文化財とか伝統文化という点では、古墳など「今は生きていないが、確かにあるもの」も記載があると、もう少し多様性が出てきてよいのではないかと思う。負の遺産にはなるが、戦争遺産、例えば競輪場の近くにある円形野外講堂とか、どう目に触れるようなかたちにして、そのような負の遺産を、正の平和の方に変換していくという点も大事ではないか。水害とか。

● 事務局

- ・ 自然という点では、筑後川とか耳納連山とか、そういうものが文化の根底にあるのではないかという議論かと思うが、確かに一つの根拠、源流だと思う。それをどれくらい計画に記載していくかという点もあると思うので、一つの課題とさせていただきたい。
- ・ それから、戦争、負の遺産ということで競輪場の近くの円形野外講堂の話があった。久留米市の歴史の中では、たいへん意味をなすものだと思うが、活用という面での方向性が見通せない、このような計画への記載は難しいという面もある。検討していきたいと思う。

○ 木藤会長

- ・ 実際には少し難しいかもしれない。事務局から説明があったように、次期基本計画については、現行のものをあらかじめ踏まえろと。そういうことでいくと、ガラッとゼロスタートというわけにはいかない。
- ・ 自然という点は、たいへん難しいところもあって、広げてしまうとなかなかまとめづらいところもある。事務局から説明もあったように、現基本計画のP2の写真の前に部分に、文化芸術の前提として、筑後川や耳納連山などの記載がある。例えば、表紙のところに耳納連山の写真を載せるとか、そういうことはあるかもしれない。

○ 矢次委員

- ・ 「ひと」という部分は、文化芸術資源といったときに変わってくるのか、そのままなのか、そこをどう考えているのか。久留米の文化芸術は、中村八大さんで止まってしまったのかと受け止められてしまう。よく言われるのが、合併したのに、城島町の人に文化芸術に関わる人を聞いたら、城島町ゆかりの人物しか言わない。現行の計画に載っている人も旧市内の方ばかりである。そのあたりの工夫をお願いしたい。

● 事務局

- ・ 現基本計画を策定した時に文化芸術振興課長をしていたので、少し補足したい。この「ひと」のところについては、当時も、藤井フミヤさんとかを顔写真付きで載せてはどうかという話もあった。しかし、ご健在の方なので、肖像権の問題等があって、その話は実現しなかった。確かに、5年前の議論でも、これでは古い印象を与えてしまうので、新しい人を出そうという話になったが、所属事務局に確認したところNGということで、現在のようなかたちになった。
- ・ 一方、合併を踏まえて旧4町出身の人材という視点は、委員ご指摘のとおり、抜けていた。自然というご意見もあったので、視覚的な見せ方も含めて、事務局の方で工夫したいと思う。

○ 井原委員

- ・ 現基本計画を基本に策定していくということではあるが、ポイントはどこに置こうとしているのか。
- ・ もう1つは、高齢者。高齢者に対する生きがいづくりのような視点を1行でもよいので加えていただければと思う。
- ・ 3点目は、掲載されている写真に動きがない。芸術家を学校に派遣すると、子どもたちの表情がガラリと変わる。そのような生き生きとした子どもの表情とか、肖像権もあるかも知れないが、人の笑顔の写真を加えたら、計画に温かみが出るのではないかと思う。

● 事務局

- ・ 現基本計画が策定された際には、「子どもたちへ」ということが、かなり検討されたと聞いて

いる。学校への芸術家派遣事業のような、子どもたちの世代に本物の芸術に触れる機会を与えるという事業は、これからも充実していきたいし、次期の計画の中でも中心的に扱っていくことになると思う。

- ・ 高齢者の方に対する文化芸術の意義という点については、現基本計画のP16に「さまざまな政策分野との連携」という記載があり、高齢者、障害者への政策にも留意しながら、素案づくりを進めたい。
- ・ 写真については、確かに子どもたちの生き生きとした表情なども入れたほうが、計画の目的を端的に表すことにもなるかと思うので、検討していきたい。

○ 木藤会長

- ・ 1点確認したい。現行の計画の理念は「市民が主役の楽しい文化創造都市・久留米」となっているおり、次期の計画も引き継ぐとしている。理念というのは、そう頻繁に変わるものではないと思うが、委員の皆様はどう考えるのか。

○ 上田委員

- ・ 少し変えたほうがよいのではないか。自分は、この会議が終わったら、この理念の言葉はすぐ忘れてしまうと思う。何かキャッチーなものがあった方がよいのではないか。

○ 木藤会長

- ・ 現基本計画のP8の理念の下には、石橋正二郎氏のことが書かれているが、その石橋正二郎氏の言葉を応用したかたちで、キャッチコピー風に考えたのが、現基本計画の理念。理念というのは、そう簡単に変わるものではないので、次回、そのような議論もしていただければと思う。

○ 矢次委員

- ・ このような会議では、必ず理念の話しになるが、「理念」と「キャッチコピー」は違う。次期の計画では、理念とは別に、キャッチコピーは設定してもよいのかもしれない。理念とは別に、「今回の計画のポイントは…」という風に整理したらどうかと思う。

○ 大倉委員

- ・ 産業が文化になって、雇用も生んで、昇華していくというのは、ゴム産業だと思う。これほど長い期間、企業が存続し、雇用を生んでいるものはない。アサヒもムーンスターも、グッドデザイン賞など文化的な賞も受賞している。日本の10代から40代までの方が履く履物の第1位はスニーカー。久留米にはその素地があるので、活用したらどうかと思う。

○ 木藤会長

- ・ 産業文化のところで、写真を掲載するのは難しいかもしれないが、文章のところで、ゴム産業について少し充実させるとか、現代までどう変遷しているかというところは書けるかもしれない。

3 その他

- 第1回会議の議事録、会議資料の公表についての確認
- 次回の審議会開催に係る日程調整について連絡
- 中西委員より退任の挨拶

4 閉会

- 木藤会長
 - ・ 閉会の挨拶

以上